

科目ナンバリングコード	AFA4301101	授業科目名	洋画基礎1			開講曜日・講時	木曜 3 限 木曜 4 限 金曜 3 限 金曜 4 限		
担当教員名	佐藤 健博	授業区分	週間授業	開講年度	2019	開講学期	前期	授業形態 種別	実習
科目ナンバリングの説明 ページへのリンク	<a href="http://www.kyoto-seika.ac.jp/stu/class/numbering">http://www.kyoto-seika.ac.jp/stu/class/numbering</a>			ディプロマポリシー(DP) の説明ページへのリンク		<a href="http://www.kyoto-seika.ac.jp/stu/class/matrix">http://www.kyoto-seika.ac.jp/stu/class/matrix</a>			
サブタイトル									
洋画の基礎を学ぶ - 油彩と木炭で身の回りのものを描く(人工物と自然物) -									
授業の目的・到達目標									
「1 年次専攻基礎(メチエ)全体における学びの目標」 1 専攻分野での造形表現に関する基礎的な知識・技能・特性を理解し、表現に必要な思考方法を身につける。 2 他者の心に訴える事ができる造形力を備え、考えを表現できるようになる。 3 自分の個性や適正を活かし、目標を持って他者と協働できるようになる。									
—専攻分野固有の学びの目標— (1)画材(木炭・油彩)の基本的な扱いを学び、その特性と魅力にふれることができる。 (2)油彩では、基本の三原色(赤+黄+青)を使用し、自ら色を作り出せるようになる。 (3)自身の目で対象を見ることの大切さが理解できる。 (4)画面の構成や空間性について学ぶことができる。 (5)空間とモチーフの関係を描く事で、量感や質感についての理解を深めることができる。									
授業の概要									
身の回りのものを描く。 私たちの身の回りには、色々な「人工物」と「自然物」に目を向けてみる。この二つの境目はどこだろうか。各自で考えながらモチーフとなる「もの」や「場所」を選び、それぞれの関係性、質の違いに向き合いながら、表現していく。 まず、木炭デッサンを行い、その後、油彩で制作する。写真や画像などを使用せず、自分自身の目で直接見て、感じて描く中で、対象と向き合うことの面白さや難しさを知る。 描く対象をしっかりと「見る」ことで、経験や記憶による思い込みや齟齬と向き合い、自身の好奇心を深めながら制作する。木炭や油絵の具の魅力に触れ、基本的な扱い方についても学ぶ。 サイズは 15 号程度、絵の具は三原色(赤+黄+青)を使用。それぞれの色の特徴を理解し、混色することで、思い通りの色を自在に作り出す事を学ぶ。 油彩特有のマチエール(絵具によって作り出される筆跡やナイフ跡、その質感)の効果についても理解し、油彩技法の魅力を体感する。									
授業計画									
■授業日程:2019年4月11日(木)~6月6日(木) ■教室:7号館 7-33・34 実習室 第1回 導入(カリキュラム・洋画材の説明、担当教員の紹介等) 第2回 「油彩と木炭で身の回りのものを描く」 モチーフを探し、エスキース 第3回 「油彩と木炭で身の回りのものを描く」 木炭デッサンの為のエスキース 第4回 「油彩と木炭で身の回りのものを描く」 木炭デッサン(1) 第5回 「油彩と木炭で身の回りのものを描く」 木炭デッサン(2) 第6回 「油彩と木炭で身の回りのものを描く」 木炭デッサン(仕上げ1) 第7回 「油彩と木炭で身の回りのものを描く」 木炭デッサン(仕上げ2) 第8回 「油彩と木炭で身の回りのものを描く」 油彩制作の為のエスキース 第9回 「油彩と木炭で身の回りのものを描く」 油彩制作(下描き1) 第10回 「油彩と木炭で身の回りのものを描く」 油彩制作(下描き2) 第11回 「油彩と木炭で身の回りのものを描く」 油彩制作(1) 第12回 「油彩と木炭で身の回りのものを描く」 油彩制作(2) 第13回 「油彩と木炭で身の回りのものを描く」 油彩制作(仕上げ1) 第14回 「油彩と木炭で身の回りのものを描く」 油彩制作(仕上げ2) 第15回 合評 ※授業内で制作に関連するDVDの鑑賞を予定									
授業外学習の指示(予習・復習・課題等)									
単位制度の趣旨に則り、この授業では週4時間の授業外学習が必要である。 美術館やギャラリー等で直接作品を鑑賞すること。沢山の作品を見る機会を作り、表現の幅広さ、多様性に触れてほしい。 PC やスマートフォンの画像はあくまでも補助的に利用すること。(直接的なモチーフとしては不可) 必要場合は授業時間外でも制作するなど、与えられた課題をこなすだけでなく、自ら考え積極性を持った行動をしてほしい。									
購入必須テキスト(授業内で配付するプリント類を除く)									
特に指定しない。									
参考文献・作品等(購入不要:より深く授業内容を理解するための有用資料)									
関連するビデオやDVD、書籍等を授業内で適時紹介する。									
参考WEBサイト(サイト名・URL)									
特になし。									

科目ナンバリングコード	AFA4303101	授業科目名	洋画基礎2			開講曜日・講時	木曜 3 限 木曜 4 限 金曜 3 限 金曜 4 限		
担当教員名	佐藤 健博	授業区分	週間授業	開講年度	2019	開講学期	前期	授業形態種別	実習
科目ナンバリングの説明ページへのリンク	<a href="http://www.kyoto-seika.ac.jp/stu/class/numbering">http://www.kyoto-seika.ac.jp/stu/class/numbering</a>			ディプロマポリシー (DP) の説明ページへのリンク	<a href="http://www.kyoto-seika.ac.jp/stu/class/matrix">http://www.kyoto-seika.ac.jp/stu/class/matrix</a>				
サブタイトル									
洋画の基礎を学ぶ - 油彩と木炭で人を描く(身近な人・自分自身など) -									
授業の目的・到達目標									
「1 年次専攻基礎(メチエ)全体における学びの目標」 1 専攻分野での造形表現に関する基礎的な知識・技能・特性を理解し、表現に必要な思考方法を身につける。 2 他者の心に訴える事ができる造形力を備え、考えを表現できるようになる。 3 自分の個性や適正を活かし、目標を持って他者と協働できるようになる。									
—専攻分野固有の学びの目標— (1)油彩の基本的な扱いを学び、その特性と魅力にふれることができる。 (2)基本の三原色(赤+黄+青)もしくはグリザイユ(黒+白)で制作。自ら色を作り出せるようになる。 (3)自身の目で対象を見ることの大切さが理解できる。 (4)画面の構成や空間性について学ぶことができる。 (5)自分の視点で人間の魅力を発見し、表現することができるようになる。									
授業の概要									
人(身体)を描く。 最も身近な「人」である自分自身や友人を描いても良いし、「手」や「足」など、身体を部分的に捉えても良い。自らを深く見つめ、今の自分について考えること、あるいは、友人と向き合うときに感じる魅力や安心感を、自我を通して掘り下げ、自らの視点を大切に表現する。 まず、木炭デッサンをして場所や背景との関係を考える。その時に生じた疑問や課題に向き合いながら改めて油彩で制作する。 描く対象をしっかりと「見る」ことで、経験や記憶による思い込みや齟齬と向き合い、自身の好奇心を深めながら制作する。木炭や油絵の具の魅力に触れ、基本的な扱い方についても学ぶ。 サイズは 15 号程度。 【三原色】赤+黄+青の、それぞれの色の特徴を理解し、混色することで、身体の質感、形、複雑な肌の色調について思い通りの色を自在に作り出す事を学ぶ。 【グリザイユ】有彩色を省き、モノクロ表現に特化する事で目の前の色相を明度に置き換える力を身につける。 油彩特有のマチエール(素材によって作り出される筆跡やナイフ跡、その質感)についても理解し、油彩技法の魅力を体感する。									
授業計画									
■授業日程:2019年6月7日(金)~7月26日(金) ■教室:7号館 7-33・34 実習室 第1回 導入(カリキュラム・洋画材の説明。担当教員の紹介等) 第2回 「油彩と木炭で人を描く」エスキース 第3回 「油彩と木炭で人を描く」木炭デッサン(1) 第4回 「油彩と木炭で人を描く」木炭デッサン(2) 第5回 「油彩と木炭で人を描く」木炭デッサン(仕上げ) 第6回 「油彩と木炭で人を描く」油彩制作の為のエスキース(1) 第7回 「油彩と木炭で人を描く」油彩制作の為のエスキース(2) 第8回 「油彩と木炭で人を描く」油彩制作(下描き1) 第9回 「油彩と木炭で人を描く」油彩制作(下描き2) 第10回 「油彩と木炭で人を描く」油彩制作(1) 第11回 「油彩と木炭で人を描く」油彩制作(2) 第12回 「油彩と木炭で人を描く」油彩制作(3) 第13回 「油彩と木炭で人を描く」油彩制作(仕上げ1) 第14回 「油彩と木炭で人を描く」油彩制作(仕上げ2) 第15回 合評 ※授業内で制作に関連するDVDの鑑賞を予定									
授業外学習の指示(予習・復習・課題等)									
単位制度の趣旨に則り、この授業では週4時間の授業外学習が必要である。 美術館やギャラリー等で直接作品を鑑賞すること。沢山の作品を見る機会を作り、表現の幅広さ、多様性に触れてほしい。 PC やスマートフォンの画像はあくまでも補助的に利用すること。(直接的なモチーフとしては不可) 必要な場合は授業時間外でも制作するなど、与えられた課題をこなすだけでなく、自ら考え積極性を持った行動をしてほしい。									
購入必須テキスト(授業内で配付するプリント類を除く)									
特に指定なし。									
参考文献・作品等(購入不要:より深く授業内容を理解するための有用資料)									
関連するビデオやDVD、書籍等を授業内で適時紹介する。									
参考WEBサイト(サイト名・URL)									
特になし。									

科目ナンバリングコード	AFA4305101	授業科目名	洋画基礎3			開講曜日・講時	木曜 3 限 木曜 4 限 金曜 3 限 金曜 4 限		
担当教員名	佐藤 健博	授業区分	週間授業	開講年度	2019	開講学期	後期	授業形態 種別	実習
科目ナンバリングの説明 ページへのリンク	<a href="http://www.kyoto-seika.ac.jp/stu/class/numbering">http://www.kyoto-seika.ac.jp/stu/class/numbering</a>			ディプロマポリシー (DP) の説明ページへのリンク		<a href="http://www.kyoto-seika.ac.jp/stu/class/matrix">http://www.kyoto-seika.ac.jp/stu/class/matrix</a>			
サブタイトル									
洋画の基礎を学ぶ - 油彩で人体(ヌード)を描く -									
授業の目的・到達目標									
「1 年次専攻基礎(メチエ)全体における学びの目標」 1 専攻分野での造形表現に関する基礎的な知識・技能・特性を理解し、表現に必要な思考方法を身につける。 2 他者の心に訴える事ができる造形力を備え、考えを表現できるようになる。 3 自分の個性や適正を活かし、目標を持って他者と協働できるようになる。									
—専攻分野固有の学びの目標— (1)油彩の基本的な扱いを学び、その特性と魅力にふれることができる。 (2)基本の三原色(赤+黄+青)もしくはグリザイユ(黒+白)で制作。自ら色を作り出せるようになる。 (3)自身の目で対象を見ることの大切さが理解できる。 (4)画面の構成や空間性について学ぶことができる。 (5)人体(ヌード)の質感、量感、動きを表現することができるようになる。									
授業の概要									
ヌードモデルを描く。 生身の身体の根源的な魅力とは何なのか。即物的な捉え方ではなく、生きている躍動を感じながらじっくりと見つめ、表現する。 最初はクロッキーを充分に行い、描く力を高める(短時間複数ポーズ・ムービングで、骨格や筋肉、人体の構造についても把握していく)。その後、油彩で制作。油彩では基本の三原色(赤+黄+青)もしくはグリザイユ(黒+白)のいずれかを選択。 描く対象をしっかりと「見る」ことで、経験や記憶による思い込みや齟齬と向き合い、自身の好奇心を深めながら制作する。油絵の具の魅力に触れ、基本的な扱い方についても学ぶ。 サイズは 15 号程度とする。 【三原色】赤+黄+青の、それぞれの色の特徴を理解し、混色することで、身体の質感、形、複雑な肌の色調について思い通りの色を自在に作り出す事を学ぶ。 【グリザイユ】有彩色を省き、モノクロ表現に特化する事で目の前の色相を明度に置き換える力を身につける。 油彩特有のマチエール(素材によって作り出される筆跡やナイフ跡、その質感)についても理解し、油彩技法の魅力を体感する。									
授業計画									
■授業日程:2019年10月3日(木)~11月28日(木) ■教室:7号館 7-33・34 実習室 第1回 導入(カリキュラム・洋画材の説明。担当教員の紹介等) 第2回 「油彩で人体(ヌード)を描く」クロッキー(短時間複数ポーズ・ムービング等1) 第3回 「油彩で人体(ヌード)を描く」クロッキー(短時間複数ポーズ・ムービング等2) 第4回 「油彩で人体(ヌード)を描く」クロッキー(短時間複数ポーズ・ムービング等3) 第5回 「油彩で人体(ヌード)を描く」油彩制作の為のクロッキー・エスキース(1) 第6回 「油彩で人体(ヌード)を描く」油彩制作の為のクロッキー・エスキース(2) 第7回 「油彩で人体(ヌード)を描く」油彩制作(下描き1) 第8回 「油彩で人体(ヌード)を描く」油彩制作(下描き2) 第9回 「油彩で人体(ヌード)を描く」油彩制作(1) 第10回 「油彩で人体(ヌード)を描く」油彩制作(2) 第11回 「油彩で人体(ヌード)を描く」油彩制作(3) 第12回 「油彩で人体(ヌード)を描く」油彩制作(4) 第13回 「油彩で人体(ヌード)を描く」油彩制作(仕上げ1) 第14回 「油彩で人体(ヌード)を描く」油彩制作(仕上げ2) 第15回 合評 ※授業内で制作に関連するDVDの鑑賞を予定									
授業外学習の指示(予習・復習・課題等)									
単位制度の趣旨に則り、この授業では週4時間の授業外学習が必要である。 美術館やギャラリー等で直接作品を鑑賞すること。沢山の作品を見る機会を作り、表現の幅広さ、多様性に触れてほしい。 PC やスマートフォンの画像はあくまでも補助的に利用すること。(直接的なモチーフとしては不可) 必要な場合は授業時間外でも制作するなど、与えられた課題をこなすだけでなく、自ら考え積極性を持った行動をしてほしい。									
購入必須テキスト(授業内で配付するプリント類を除く)									
特に指定なし。									
参考文献・作品等(購入不要:より深く授業内容を理解するための有用資料)									
関連するビデオやDVD、書籍等を授業内で適時紹介する。									
参考WEBサイト(サイト名・URL)									
特になし。									

科目ナンバリングコード	AFA4307101	授業科目名	洋画基礎4			開講曜日・講時	木曜 3 限 木曜 4 限 金曜 3 限 金曜 4 限		
担当教員名	佐藤 健博	授業区分	週間授業	開講年度	2019	開講学期	後期	授業形態種別	実習
科目ナンバリングの説明ページへのリンク	<a href="http://www.kyoto-seika.ac.jp/stu/class/numbering">http://www.kyoto-seika.ac.jp/stu/class/numbering</a>			ディプロマポリシー(DP)の説明ページへのリンク	<a href="http://www.kyoto-seika.ac.jp/stu/class/matrix">http://www.kyoto-seika.ac.jp/stu/class/matrix</a>				
サブタイトル									
洋画の基礎を学ぶ - 油彩で心ひかれるものを描く -									
授業の目的・到達目標									
<p>「1 年次専攻基礎(メチエ)全体における学びの目標」</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 専攻分野での造形表現に関する基礎的な知識・技能・特性を理解し、表現に必要な思考方法を身につける。</li> <li>2 他者の心に訴える事ができる造形力を備え、考えを表現できるようになる。</li> <li>3 自分の個性や適正を活かし、目標を持って他者と協働できるようになる。</li> </ol>									
<p>—専攻分野固有の学びの目標—</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>(1)油彩の基本的な扱いを学び、その特性と魅力にふれることができる。</li> <li>(2)油彩表現をおこなう中で、画面上での色調やマチエールを理解できる。</li> <li>(3)自身の目で対象を見ることの大切さが理解できる。</li> <li>(4)画面の構成や空間性について学ぶことができる。</li> <li>(5)モチーフを選ぶ中で自己への探求を深めることができる。</li> </ol>									
授業の概要									
<p>心ひかれるものを描く。</p> <p>自分が一番描きたいものは何なのか、また、なぜ今描きたいのかを考え制作する。必ず「見て」描くこと。</p> <p>各自がモチーフを準備して、セッティングする。物の配置や画面との関係について深く探求する。校内であれば、屋外での制作も可。光の変化や天候をより顕著に感じる中で、目の前の対象を表現することの奥深さに触れる。</p> <p>洋画基礎 4 では、サイズを 30 号までとし、洋画基礎 1～3 とは異なり、比較的大きなサイズに挑戦する。モチーフの配置や構図など、十分にエスキースを行い、油彩で制作する。</p> <p>描く対象をしっかりと「見る」ことで、経験や記憶による思い込みや齟齬と向き合い、自身の好奇心を深めながら制作する。油絵の具の魅力に触れ、基本的な扱い方についても学ぶ。</p> <p>絵具は基本の三原色(赤+黄+青)に各自で持参した色を複数使用しても良い。油彩特有のマチエール(絵具によって作り出される筆跡やナイフ跡、その質感)についても理解し、油彩技法の魅力を経験する。</p>									
授業計画									
<p>■授業日程:2019年11月29日(金)～2020年1月31日(金)</p> <p>■教室:7号館 7-33・34 実習室</p> <p>第1回 導入(カリキュラム・洋画材の説明。担当教員の紹介等)</p> <p>第2回 「心ひかれるものを描く」モチーフを探す</p> <p>第3回 「心ひかれるものを描く」モチーフの配置を考える</p> <p>第4回 「心ひかれるものを描く」油彩制作の為のエスキース(1)</p> <p>第5回 「心ひかれるものを描く」油彩制作の為のエスキース(2)</p> <p>第6回 「心ひかれるものを描く」油彩制作(下描き1)</p> <p>第7回 「心ひかれるものを描く」油彩制作(下描き2)</p> <p>第8回 「心ひかれるものを描く」油彩制作(1)</p> <p>第9回 「心ひかれるものを描く」油彩制作(2)</p> <p>第10回 「心ひかれるものを描く」油彩制作(3)</p> <p>第11回 「心ひかれるものを描く」油彩制作(4)</p> <p>第12回 「心ひかれるものを描く」油彩制作(仕上げ1)</p> <p>第13回 「心ひかれるものを描く」油彩制作(仕上げ2)</p> <p>第14回 「心ひかれるものを描く」油彩制作(仕上げ3)</p> <p>第15回 合評</p> <p>※授業内で制作に関連するDVDの鑑賞を予定</p>									
授業外学習の指示(予習・復習・課題等)									
<p>単位制度の趣旨に則り、この授業では週4時間の授業外学習が必要である。</p> <p>美術館やギャラリー等で直接作品を鑑賞すること。沢山の作品を見る機会を作り、表現の幅広さ、多様性に触れてほしい。</p> <p>PCやスマートフォンの画像はあくまでも補助的に利用すること。(直接的なモチーフとしては不可)</p> <p>必要な場合は授業時間外でも制作するなど、与えられた課題をこなすだけでなく、自ら考え積極性を持った行動をしてほしい。</p>									
購入必須テキスト(授業内で配付するプリント類を除く)									
特に指定しない。									
参考文献・作品等(購入不要:より深く授業内容を理解するための有用資料)									
関連するビデオやDVD、書籍等を授業内で適時紹介する。									
参考WEBサイト(サイト名・URL)									
特になし。									

科目ナンバリング コード	AFA4309101	授業科目名	日本画基礎1			開講曜日・講時	木曜 3 限 木曜 4 限 金曜 3 限 金曜 4 限		
担当教員名	石田 育代、諏訪 智 美、堀川 愛依	授業区分	週間授業	開講年度	2019	開講学期	前期	授業形態 種別	実習
科目ナンバリングの説明 ページへのリンク	<a href="http://www.kyoto-seika.ac.jp/stu/class/numbering">http://www.kyoto-seika.ac.jp/stu/class/numbering</a>			ディプロマポリシー(DP) の説明ページへのリンク	<a href="http://www.kyoto-seika.ac.jp/stu/class/matrix">http://www.kyoto-seika.ac.jp/stu/class/matrix</a>				
サブタイトル									
日本画材で描く草花									
授業の目的・到達目標									
「1 年次専攻基礎(メチエ)全体における学びの目標」 1 専攻分野での造形表現に関する基礎的な知識・技能・特性を理解し、表現に必要な思考方法を身につける。 2 他者の心に訴える事ができる造形力を備え、考えを表現できるようになる。 3 自分の個性や適正を活かし、目標を持って他者と協働できるようになる。									
—専攻分野固有の学びの目標— (1)胡粉・水干絵具を膠で溶きおろして彩色を重ねるという、最も基本的な技術を身につける。 (2)植物そのものの美しさに注目して、じっくりと向き合い、観察できるようになる。 (3)和紙の余白との関係を意識して描くことで、日本画表現と洋画表現の違いについて考えることができる。									
授業の概要									
まず水彩絵具や鉛筆にて植物を丁寧に写生し、構図を吟味しながら、日本画材料を用いた本紙制作に昇華させていく。本紙制作では、和紙の水張り、写生からの転写、墨での骨描きや隈取り、胡粉や水干絵具を膠で溶きおろしての彩色を一通り体験する。とくにシンプルな姿の植物をモチーフにすることで、その佇まいの美しさや、余白との関係を意識した表現を考える。									
授業計画									
■授業日程:2019年4月11日(木)~6月6日(木) ■教室:5号館 5B-1 実習室 第1回 植物の写生、ドーサ引き 第2回 続き 第3回 写生、和紙の水張り 第4回 写生、構図構想 第5回 写生仕上げ 第6回 写生仕上げ、和紙への転写、墨での骨描き 第7回 続き 第8回 胡粉下地、水干絵具による下塗り 第9回 水干絵具による彩色 第10回 続き 第11回 続き 第12回 続き 第13回 続き 第14回 仕上げ、作品を木製パネルよりはがす 第15回 講評									
授業外学習の指示(予習・復習・課題等)									
単位制度の趣旨に則り、この授業では週4時間の授業外学習が必要である。 日頃から関連するモチーフをよく観察し、描きとめること。授業の内容をよく把握し、下準備に努めること。 具体的には第6回前後までの時期に、草花をよく観察し、クロッキーや下絵への取り組みを積極的に行うこと。 漫然と草花の形態を追うのではなく、豊かな感受性のもと植物の成長の様々な局面を描き止め、下絵を作り上げる姿勢をもってほしい。積極的な予習復習の取り組み姿勢によって、最終的な構図をより意味深いものに成長させ本紙制作に挑んでほしい。 第6回以降は、使い慣れない画材であることを考慮し、下準備や試し描きなどに積極的に取り組み、より綿密な制作姿勢をもつよう努めること。使用に慣れるだけで精一杯になってしまうよう、画材の特性を表現につなげるための余裕をつくることが望ましい。									
購入必須テキスト(授業内で配付するプリント類を除く)									
特になし									
参考文献・作品等(購入不要:より深く授業内容を理解するための有用資料)									
適宜紹介。									
参考WEBサイト(サイト名・URL)									
特になし									

科目ナンバリングコード	AFA4311101	授業科目名	日本画基礎2			開講曜日・講時	木曜 3 限 木曜 4 限 金曜 3 限 金曜 4 限		
担当教員名	石田 育代、諏訪 智 美、堀川 愛依	授業区分	週間授業	開講年度	2019	開講学期	前期	授業形態 種別	実習
科目ナンバリングの説明 ページへのリンク	<a href="http://www.kyoto-seika.ac.jp/stu/class/numbering">http://www.kyoto-seika.ac.jp/stu/class/numbering</a>			ディプロマポリシー(DP) の説明ページへのリンク		<a href="http://www.kyoto-seika.ac.jp/stu/class/matrix">http://www.kyoto-seika.ac.jp/stu/class/matrix</a>			
サブタイトル									
絹本に描く小さな生き物									
授業の目的・到達目標									
<p>「1 年次専攻基礎(メチエ)全体における学びの目標」</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 専攻分野での造形表現に関する基礎的な知識・技能・特性を理解し、表現に必要な思考方法を身につける。</li> <li>2 他者の心に訴える事ができる造形力を備え、考えを表現できるようになる。</li> <li>3 自分の個性や適正を活かし、目標を持って他者と協働できるようになる。</li> </ol>									
<p>—専攻分野固有の学びの目標—</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>(1)文字や絵をかく支持体として紙が用いられることの多い昨今、より多くの素材に興味を持つことができる。なかでも絹本を扱うことを通して、その性質について考えることができる。</li> <li>(2)写真や動画など、モチーフの情報を収集する手段が増えた現代において、実際に生きて動き回る対象を自分自身の目で観察し、表現できるようになる。</li> <li>(3)生き物にじっくりと向き合うことを通して、自然の造形美を自身の目で発見することができる。</li> </ol>									
授業の概要									
<p>絹本を木枠に張り込み、ドーサ引きを施すという最も基本的な工程を体験する。墨や水干絵具を用いて、絹本への描き心地を体感する。とくに絹本ならではの風合いを生かすため、裏彩色の技法を経験する。</p> <p>その際のモチーフには金魚などの小さな生き物を採用し、まず動きを素早く大掴みに捉えるクロッキーの体験をする。その上で、自力で美しい姿を見つけ構図を整える。</p>									
授業計画									
<p>■授業日程:2019年6月7日(金)~7月26日(金)</p> <p>■教室:5号館 5B-1 実習室</p>									
<ol style="list-style-type: none"> <li>第1回 モチーフセッティング、木枠への下準備(捨て糊)、クロッキー</li> <li>第2回 クロッキー(続)、絹の張り込み</li> <li>第3回 クロッキー(続)、ドーサ引き・表面</li> <li>第4回 クロッキー(続)、ドーサ引き・裏面</li> <li>第5回 ポーズの吟味、ドーサ引き・予備回</li> <li>第6回 下絵づくり</li> <li>第7回 下絵づくり</li> <li>第8回 転写、地塗り、裏彩色等</li> <li>第9回 転写、地塗り、裏彩色等</li> <li>第10回 制作</li> <li>第11回 制作</li> <li>第12回 制作</li> <li>第13回 制作</li> <li>第14回 仕上げ、モチーフ撤収等</li> <li>第15回 講評</li> </ol>									
授業外学習の指示(予習・復習・課題等)									
<p>単位制度の趣旨に則り、この授業では週4時間の授業外学習が必要である。</p> <p>日頃から関連するモチーフをよく観察し、描きとめること。授業の内容をよく把握し、下準備に努めること。</p> <p>具体的には第7回前後までの時期に、対象をよく観察し、クロッキーや下絵への取り組みを積極的に行うこと。</p> <p>漫然と形態を追うのではなく、豊かな感受性のもと動きや個性、水中の印象など様々な局面を描きとめ、下絵を作り上げる姿勢をもってほしい。積極的な予習復習の取り組み姿勢によって、最終的な構図をより意味深いものに成長させ本紙制作に挑んでほしい。</p> <p>第8回以降は、使い慣れない画材であることを考慮し、下準備や試し描きなどに積極的に取り組み、より綿密な制作姿勢をもつよう努めること。使用に慣れるだけで精一杯になってしまうよう、画材の特性を表現につなげるための余裕をつくることが望ましい。</p>									
購入必須テキスト(授業内で配付するプリント類を除く)									
特になし									
参考文献・作品等(購入不要:より深く授業内容を理解するための有用資料)									
適宜紹介。									
参考WEBサイト(サイト名・URL)									
特になし									

科目ナンバリング コード	AFA4313101	授業科目名	日本画基礎3			開講曜日・講時	木曜 3 限 木曜 4 限 金曜 3 限 金曜 4 限		
担当教員名	石田 育代、諏訪 智 美、堀川 愛依	授業区分	週間授業	開講年度	2019	開講学期	後期	授業形態 種別	実習
科目ナンバリングの説明 ページへのリンク	<a href="http://www.kyoto-seika.ac.jp/stu/class/numbering">http://www.kyoto-seika.ac.jp/stu/class/numbering</a>			ディプロマポリシー(DP) の説明ページへのリンク	<a href="http://www.kyoto-seika.ac.jp/stu/class/matrix">http://www.kyoto-seika.ac.jp/stu/class/matrix</a>				
サブタイトル									
岩絵具で描く小さな自然物									
授業の目的・到達目標									
「1 年次専攻基礎(メテエ)全体における学びの目標」 1 専攻分野での造形表現に関する基礎的な知識・技能・特性を理解し、表現に必要な思考方法を身につける。 2 他者の心に訴える事ができる造形力を備え、考えを表現できるようになる。 3 自分の個性や適正を活かし、目標を持って他者と協働できるようになる。									
—専攻分野固有の学びの目標— (1)対象とするモチーフのもつ独特の風合いや質感を、自分自身の五感を使って観察し、表現に繋げることができる。 (2)岩絵具という、粒子感のある画材の使用を体験する。このことを通して絵肌の表情に関心を持ち、表現にどのように活用するかを考えることができる。									
授業の概要									
独特の質感をもつ自然物(例:とくに貝や石などざらつきのあるもの)をモチーフに採用し、個体差のある風合い、質感を観察しながら、まず水彩絵具や鉛筆での写生に取り組む。これをもとに日本画材料を用いた本紙制作に昇華するうえで、水干絵具の扱いを習得することを基盤にしつつ、仕上げに岩絵具を併用する体験をする。									
授業計画									
■授業日程:2019年10月3日(木)~11月28日(木) ■教室:5号館 5B-1 実習室									
第1回 モチーフセッティング、写生 第2回 写生(続)、試し描きパネル水張り 第3回 ドーサ引き(表)、写生(続) 第4回 ドーサ引き(裏)、写生(続) 第5回 写生、構図構想、試作および本制作用の和紙の水張り 第6回 写生仕上げ、和紙への転写、墨での骨描き 第7回 続き 第8回 胡粉下地、水干絵具による下塗り 第9回 水干絵具による彩色 第10回 続き 第11回 続き 第12回 岩絵具の併用も交えていく(制作後半期目安) 第13回 続き 第14回 仕上げ 第15回 講評、作品を木製パネルよりはがす									
授業外学習の指示(予習・復習・課題等)									
単位制度の趣旨に則り、この授業では週4時間の授業外学習が必要である。 日頃から関連するモチーフをよく観察し、描きとめること。授業の内容をよく把握し、下準備に努めること。 具体的には第6回前後までの時期に、対象をよく観察し、下絵への取り組みを積極的に行うこと。 漫然と形態を追うのではなく、豊かな感受性のもと下絵を作り上げる姿勢をもってほしい。モチーフに関連した対象の観察、写生など予習復習の取り組み姿勢によって、最終的な表現の風合いをより意味深いものに成長させ挑んでほしい。 第6回以降は、使い慣れない画材であることを考慮し、下準備や試し描きなどに積極的に取り組み、より綿密な制作姿勢をもつよう努めること。使用に慣れるだけで精一杯になってしまうよう、画材の特性を表現につなげるための余裕をつくることが望ましい。									
購入必須テキスト(授業内で配付するプリント類を除く)									
特になし									
参考文献・作品等(購入不要:より深く授業内容を理解するための有用資料)									
適宜紹介。									
参考 WEB サイト(サイト名・URL)									
特になし									

科目ナンバリング コード	AFA4315101	授業科目名	日本画基礎4			開講曜日・講時	木曜 3 限 木曜 4 限 金曜 3 限 金曜 4 限		
担当教員名	石田 育代、諏訪 智 美、堀川 愛依	授業区分	週間授業	開講年度	2019	開講学期	後期	授業形態 種別	実習
科目ナンバリングの説明 ページへのリンク	<a href="http://www.kyoto-seika.ac.jp/stu/class/numbering">http://www.kyoto-seika.ac.jp/stu/class/numbering</a>			ディプロマポリシー(DP) の説明ページへのリンク		<a href="http://www.kyoto-seika.ac.jp/stu/class/matrix">http://www.kyoto-seika.ac.jp/stu/class/matrix</a>			
サブタイトル									
箔を生かした落ち葉の風合い									
授業の目的・到達目標									
「1 年次専攻基礎(メチエ)全体における学びの目標」 1 専攻分野での造形表現に関する基礎的な知識・技能・特性を理解し、表現に必要な思考方法を身につける。 2 他者の心に訴える事ができる造形力を備え、考えを表現できるようになる。 3 自分の個性や適正を活かし、目標を持って他者と協働できるようになる。									
—専攻分野固有の学びの目標— (1)落ち葉の写生を通して、小さな自然物の中にも造形美を感じることができる。 (2)基本的な箔の扱い方や技法、および水干絵具の使い方を身につける。 (3)箔と絵の具を併用する制作を行い、表現の幅を広げ、積極的に画面を構成することができる。									
授業の概要									
箔は薄く延ばされた金属であり、下地の凹凸をよく反映する。このことを実感してもらうことを兼ね、「盛り上げ胡粉」という凹凸をもたらす伝統的な技法を、下地に生かしてみる。また、マスキング技法である「面蓋」に挑戦し、意図的な形に箔を押すなど、箔による表現効果を体験する。 落ち葉などの写生をもとに、上記の箔を用いた技法と水干絵の具を併用し制作を行う。異質な素材を併用することで得られる表現効果を生かし、積極的に画面構成を試みた作品制作を行う。									
授業計画									
■授業日程:2019年11月29日(金)~2020年1月31日(金) ■教室:5号館 5B-1 実習室									
第1回 和紙へのドーサ引き、落ち葉写生 第2回 ドーサ引き続き、落ち葉写生 第3回 ドーサ引き(予備回)、落ち葉写生 第4回 水張り、落ち葉写生完成 第5回 F8号での作品構想、試作小パネル/面蓋用の和紙カッティング、盛り上げ胡粉 第6回 F8号での作品構想、試作小パネル/盛り上げ胡粉完成、そのほかのマチエール作りなど 第7回 F8号での作品下絵作り、試作小パネル/面蓋貼り付け、箔押し、そのほか箔表現試しなど 第8回 F8号での作品下絵作り、試作小パネル/面蓋はがし、仕上げドーサ、補修、そのほか箔表現試しなど 第9回 F8号での作品制作 第10回 制作 第11回 制作 第12回 制作 第13回 制作 第14回 制作・仕上げ 第15回 講評 作品を木製パネルよりはがす									
授業外学習の指示(予習・復習・課題等)									
単位制度の趣旨に則り、この授業では週4時間の授業外学習が必要である。 日頃から関連するモチーフをよく観察し、描きとめること。授業の内容をよく把握し、下準備に努めること。 具体的には第4回までに、落ち葉の収集、観察、写生を充分に行い、作品制作に備えること。落ち葉の美しい風合いが感じられる時期を見逃さずに描きとめ、対象から感じ、理解したことを蓄積していってほしい。 第5回以降は、モチーフの写生と表現技法をどのように作品へと昇華させるかを考え、構想や試作に十分な時間をかけてほしい。									
購入必須テキスト(授業内で配付するプリント類を除く)									
特になし									
参考文献・作品等(購入不要:より深く授業内容を理解するための有用資料)									
適宜紹介。									
参考WEBサイト(サイト名・URL)									
特になし									



科目ナンバリング コード	AFA4317101	授業科目名	立体基礎1			開講曜日・講時	木曜 3 限 木曜 4 限 金曜 3 限 金曜 4 限		
担当教員名	外磯 秀紹	授業区分	週間授業	開講年度	2019	開講学期	前期	授業形態 種別	実習
科目ナンバリングの説明 ページへのリンク	<a href="http://www.kyoto-seika.ac.jp/stu/class/numbering">http://www.kyoto-seika.ac.jp/stu/class/numbering</a>			ディプロマポリシー(DP) の説明ページへのリンク		<a href="http://www.kyoto-seika.ac.jp/stu/class/matrix">http://www.kyoto-seika.ac.jp/stu/class/matrix</a>			
サブタイトル									
土と鉄の立体制作									
授業の目的・到達目標									
「1 年次専攻基礎(メテエ)全体における学びの目標」									
1 専攻分野での造形表現に関する基礎的な知識・技能・特性を理解し、表現に必要な思考方法を身につける。									
2 他者の心に訴える事ができる造形力を備え、考えを表現できるようになる。									
3 自分の個性や適正を活かし、目標を持って他者と協働できるようになる。									
—専攻分野固有の学びの目標—									
1)新たな創造性を生み出すことができる。									
2)立体構成する力を習得することができる。									
3)粘土原型を永久素材(テラコッタ)に加工することができる。									
4)金属の加工技術を習得することができる。									
授業の概要									
この授業では、素材に粘土(テラコッタ)と鉄を使って立体作品を作ります。テーマは『顔の形』で4作品つくります。									
(1)目隠しをして視覚に頼らない触覚による自分の顔の制作。テラコッタ(素焼き)にして完成。									
(2)モデリング首像の制作。2人一組で制作者とモデルを行なう。テラコッタにして完成。									
(3)自分の好きな動物の制作。粘土で自由に制作します。テラコッタにして完成。									
(4)鉄材を使って蠟燭立てを作ります。テラコッタと組み合わせも出来ます。									
授業計画									
■授業日程:2019年4月11日(木)~6月6日(木)									
■教室:7号館 ピロティ									
1回目 導入、課題、日程等の説明。 制作 視覚に頼らない制作(90分)。テーマは「自分の顔」。後日テラコッタにして完成。									
2回目 制作 粘土を使ってモデリング首像。2人一組でモデル、制作者交互に行なう。スケッチ。									
3回目 制作 粘土を使ってモデリング首像。									
4回目 制作 粘土を使ってモデリング首像。									
5回目 制作 粘土を使ってモデリング首像。窯でテラコッタ(素焼き)にして完成。									
6回目 制作 好きな動物をつくる。具象形、想像上の動物でも良い。作品に『顔』を入れる。									
7回目 制作 好きな動物をつくる。									
8回目 制作 好きな動物をつくる。									
9回目 制作 好きな動物をつくる。作品は窯で焼成してテラコッタで完成。									
10回目 制作 鉄材で蠟燭立ての制作。テーマ『顔のある燭台』。機械工具の説明と練習。									
11回目 制作 鉄材で蠟燭立ての制作。									
12回目 制作 鉄材で蠟燭立ての制作。									
13回目 制作 鉄材で蠟燭立ての制作。									
14回目 制作 鉄材で蠟燭立ての制作。作品はテラコッタと組み合わせたものでも良い。									
15回目 合評 テラコッタの作品と鉄の作品の4点で行なう。									
授業外学習の指示(予習・復習・課題等)									
単位制度の趣旨に則り、この授業では週4時間の授業外学習が必要である。生物の形を調査したり観察しておくといよい。スケッチ。									
購入必須テキスト(授業内で配付するプリント類を除く)									
特になし。									
参考文献・作品等(購入不要:より深く授業内容を理解するための有用資料)									
特になし。									
参考WEBサイト(サイト名・URL)									
特になし。									

科目ナンバリングコード	AFA4319101	授業科目名	立体基礎2			開講曜日・講時	木曜 3 限 木曜 4 限 金曜 3 限 金曜 4 限		
担当教員名	並木 文音	授業区分	週間授業	開講年度	2019	開講学期	前期	授業形態種別	実習
科目ナンバリングの説明ページへのリンク	<a href="http://www.kyoto-seika.ac.jp/stu/class/numbering">http://www.kyoto-seika.ac.jp/stu/class/numbering</a>			ディプロマポリシー (DP) の説明ページへのリンク		<a href="http://www.kyoto-seika.ac.jp/stu/class/matrix">http://www.kyoto-seika.ac.jp/stu/class/matrix</a>			
サブタイトル									
身近な物からの型取り(シリコン型の作製)と、素材を置換え表現へと繋げる。									
授業の目的・到達目標									
「1 年次専攻基礎(メテエ)全体における学びの目標」									
1 専攻分野での造形表現に関する基礎的な知識・技能・特性を理解し、表現に必要な思考方法を身につける。									
2 他者の心に訴える事ができる造形力を備え、考えを表現できるようになる。									
3 自分の個性や適正を活かし、目標を持って他者と協働できるようになる。									
—専攻分野固有の学びの目標—									
?自らの考えやイメージ、表現する内容に対して、的確な素材を選ぶことができる。									
?単純な形(片面)の型取りを行い、型(石膏、シリコン、アルギン酸等)の作製と素材の置換(石膏)、形の複製ができる。									
?自らの過去、記憶、経験、あるいは日常、社会から見出した興味、関心をもとにテーマやコンセプトを導きだし、表現へと結びつけることができる。									
?作品をとおして、自身の考えを他者へと発信する意識を持つことができる。									
授業の概要									
現代の彫刻、立体表現では多様な表現方法が模索されている。									
立体基礎2では生活用品、既製品を始め、私たちのすぐ身近にある様々な物を素材と捉え、直接表現に使用すること、その物から直接型を取る方法、型による素材の置き換え、複製を行う。その際、素材となる物の視覚的な部分の他、性質、存在意義に着目し、各自素材の選定から行っていく。よって自らの考え、イメージに適した素材を導き出す方法や、どういった物が素材として成り得るのかをまずは考え探っていく。また、身近な素材を知った上で、型取りの手法(シリコン型の作製方法)と、作製した型を使用した素材の置き換え、かたちの複製、量産の方法を修得しながら、それを自分の表現にどう活用するのか、発想と構想を重要視し考える作業も同時に行っていく。従って、課題をとおして自らの経験や、日常と社会を観察する中で見出した興味、関心を表現へと繋げていくこと、ならびに課題作品のプレゼンテーションや、ディスカッションをとおして自身の作品をもって他者へ向けて発信していく意識を持つこと、他者へ伝える方法を導き出すことを考察していく。									
授業計画									
■授業日程:2019年6月7日(金)~7月26日(金)									
第1回 授業ガイダンス/課題①「収集と展示(素材と性質)」									
第2回 作品制作(作品の構想・素材を探す・素材を集める・実制作)									
第3回 作品制作(設置と展示)/合評会									
第4回 課題②?「ものかたちの引用(型の作製)」グループ制作									
第5回 作品制作(原型を選ぶ・原型を探す・型の作製)									
第6回 作品制作(石膏型、シリコン型、アルギン酸等、型の作製)									
第7回 作品制作(型の作製・素材の置き換え)									
第8回 課題②?「ものかたちの引用(素材の置換と複製)」グループ制作									
第9回 作品制作(石膏、樹脂、等への素材の置き換え)									
第10回 作品制作(素材の置き換え・型からの複製)									
第11回 作品制作(型からの複製・課題③の素材の作製)									
第12回 課題③「アッサンブラージュ(機能・用途の解放と造形)」									
第13回 作品制作(作品の構想・素材を探す・素材を集める・実制作)									
第14回 作品制作(実制作・素材の加工と構成)									
第15回 作品制作(作品設置)/合評会									
(授業の進行状況により課題に取り組む期間変更あり)									
授業外学習の指示(予習・復習・課題等)									
単位制度の趣旨に則り、この授業では週4時間の授業外学習が必要である。									
この授業では、まず素材を探し出すことから行うため、予習として実制作に入る前に各自で素材の準備をすることが必要である。期日までに必ず作品の発表が出来るよう、各自課題制作、プレゼンテーションの準備を進めること。また日頃から美術館、ギャラリー等で展覧会を鑑賞し、様々な表現方法に触れておくこと。									
購入必須テキスト(授業内で配付するプリント類を除く)									
特になし。									
参考文献・作品等(購入不要:より深く授業内容を理解するための有用資料)									
授業内で適宜紹介する。									
参考 WEB サイト(サイト名・URL)									

科目ナンバリング コード	AFA4321101	授業科目名	立体基礎3			開講曜日・講時	木曜 3 限 木曜 4 限 金曜 3 限 金曜 4 限		
担当教員名	鎌田 祥平	授業区分	週間授業	開講年度	2019	開講学期	後期	授業形態 種別	実習
科目ナンバリングの説明 ページへのリンク	<a href="http://www.kyoto-seika.ac.jp/stu/class/numbering">http://www.kyoto-seika.ac.jp/stu/class/numbering</a>			ディプロマポリシー(DP) の説明ページへのリンク	<a href="http://www.kyoto-seika.ac.jp/stu/class/matrix">http://www.kyoto-seika.ac.jp/stu/class/matrix</a>				
サブタイトル									
石彫・大理石でオブジェ制作									
授業の目的・到達目標									
「1 年次専攻基礎(メテエ)全体における学びの目標」 1 専攻分野での造形表現に関する基礎的な知識・技能・特性を理解し、表現に必要な思考方法を身につける。 2 他者の心に訴える事ができる造形力を備え、考えを表現できるようになる。 3 自分の個性や適正を活かし、目標を持って他者と協働できるようになる。									
—専攻分野固有の学びの目標—  1.大理石でオブジェ制作を行い、彫刻の基礎技法を習得する。 2.大理石から受けたイメージを通して、素材を生かした表現が出来る。 3.石材を加工する技術の習得。									
授業の概要									
石は古代から彫刻の素材としてだけではなく、建造物、信仰の対象、装飾品などの様々な場面で、我々の生活に密接に関わってきた素材と言える。この授業では、人々の生活に密接してきた素材を、各自の日常生活に、新たにどういった形で取り入れられるのか、その可能性についても考えながら制作していく。従来の石彫のイメージに留まらず、各々の興味、関心に基づいて、自由な発想で石材のもつ魅力を考えてほしい。									
授業計画									
■授業日程:2019年10月3日(木)~11月28日(木)  1.授業のガイダンス、石材の説明 2.オブジェの構想 3.粘土模型の制作 4.形に合わせた大理石の選定、割り出し 5.石への下書き、全体の粗彫り、電動工具の使用法の習得 6.電動工具を使用した全体の粗彫り 7.粗彫り、鑿・石頭などの工具の使用法の習得 8.鑿・石頭を使用した粗彫り 9.粗彫りの仕上げ、全体の形の把握と整え 10.形の整え、細部の彫りだし 11.細部・表面の掘りだし 12.細部を含めた全体の形の仕上げ 13.表面の磨き、電動工具・砥石の使用法の習得 14.電動工具・砥石を使用した磨き、オブジェの完成 15.合評会									
授業外学習の指示(予習・復習・課題等)									
単位制度の趣旨に則り、この授業では週4時間の授業外学習が必要である。 課題制作が授業時間内に完成しない場合は講評日までに各自制作。									
購入必須テキスト(授業内で配付するプリント類を除く)									
特になし。									
参考文献・作品等(購入不要:より深く授業内容を理解するための有用資料)									
授業内で適宜紹介する。									
参考 WEB サイト(サイト名・URL)									
特になし。									

科目ナンバリングコード	AFA4323101	授業科目名	立体基礎4			開講曜日・講時	木曜 3 限 木曜 4 限 金曜 3 限 金曜 4 限		
担当教員名	稲垣 大	授業区分	週間授業	開講年度	2019	開講学期	後期	授業形態種別	実習
科目ナンバリングの説明ページへのリンク	<a href="http://www.kyoto-seika.ac.jp/stu/class/numbering">http://www.kyoto-seika.ac.jp/stu/class/numbering</a>			ディプロマポリシー(DP)の説明ページへのリンク		<a href="http://www.kyoto-seika.ac.jp/stu/class/matrix">http://www.kyoto-seika.ac.jp/stu/class/matrix</a>			
サブタイトル									
鍛金実習									
授業の目的・到達目標									
<p>「1 年次専攻基礎(メテエ)全体における学びの目標」</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 専攻分野での造形表現に関する基礎的な知識・技能・特性を理解し、表現に必要な思考方法を身につける。</li> <li>2 他者の心に訴える事ができる造形力を備え、考えを表現できるようになる。</li> <li>3 自分の個性や適正を活かし、目標を持って他者と協働できるようになる。</li> </ol>									
<p>—専攻分野固有の学びの目標—</p> <p>金工技法の一つである鍛金技法を学んでいきます。鍛金は平たい地金を金槌で立体的に打ち上げていく技法ですが、その基礎として回転体の形をベースとした器物制作、鍛造による金具制作を体験します。金工の基礎技法を体験することで「ものづくり」に対する純粋な喜びを喚起し、モチベーションや技能を向上させ、立体造形について今までとは違う視点から新たな創造への誘いとなることを目的とします。</p>									
<p>授業の概要</p> <p>非鉄金属の基礎知識を学び鍛金技法の打ち出しによる器物制作、鍛造による金具制作を体験する。金属の特徴である可塑性を学び、体験する事で立体造形についてこれまでと違う視点から新たな創造への誘いとなる事、また材料実習(2年生)への応用を目的とする。</p> <p>また、一つの素材に向き合い、対峙する中での相応した技術を体感しながら造形し完成させる段階を理解し体験する事で、今後それぞれの制作スタンスにその捉え方として繋ぎ、生かす事を目的とする。</p>									
<p>授業計画</p> <p>■授業日程:2019年11月29日(金)~2020年1月31日(金)</p> <p>第1回 道具作り(金槌、木台、金床等)1  第2回 道具作り(金槌、木台、金床等)2  第3回 打ち出し真鍮小皿制作(酸洗い、磨き等)1  第4回 打ち出し真鍮小皿制作(酸洗い、磨き等)2  第5回 打ち出し銅板小物入れ、真鍮把手の制作(硫化着色仕上げ等)1  第6回 打ち出し銅板小物入れ、真鍮把手の制作(硫化着色仕上げ等)2  第7回 鍛造による真鍮金具(フック)の制作 1  第8回 鍛造による真鍮金具(フック)の制作 2  第9回 純銅フライパン、真鍮持ち手の制作(リベット接合等)1  第10回 純銅フライパン、真鍮持ち手の制作(リベット接合等)2  第11回 習熟度、完成度ともにある程度のレベルの進行が見極まった時点を優先し、到達した時点で、さらなる展開を目指す。1  第12回 習熟度、完成度ともにある程度のレベルの進行が見極まった時点を優先し、到達した時点で、さらなる展開を目指す。2  第13回 習熟度、完成度ともにある程度のレベルの進行が見極まった時点を優先し、到達した時点で、さらなる展開を目指す。3  第14回 習熟度、完成度ともにある程度のレベルの進行が見極まった時点を優先し、到達した時点で、さらなる展開を目指す。4  第15回 習熟度、完成度ともにある程度のレベルの進行が見極まった時点を優先し、到達した時点で、さらなる展開を目指す。5</p>									
<p>授業外学習の指示(予習・復習・課題等)</p> <p>単位制度の趣旨に則り、この授業では週4時間の授業外学習が必要である。  道具(金槌の先端を削る作業)、材料(銅、真鍮、アルミなど)の地金取り(※材料取り)など、授業時間内での進捗や欠席のため大幅に遅れた場合に宿題とする場合がある。</p> <p>購入必須テキスト(授業内で配付するプリント類を除く)</p> <p>鍛金と金工技法種類、金属の種類を表記し、道具類の説明を含めた課題シートを配布。</p> <p>参考文献・作品等(購入不要:より深く授業内容を理解するための有用資料)</p> <p>作品及びデモンストレーション等</p> <p>参考WEBサイト(サイト名・URL)</p> <p>講師の経営する実店舗「Dine Factory」URL <a href="http://dine-factory.com/">http://dine-factory.com/</a>  展示会情報や作品/商品の写真掲載。</p>									

科目ナンバリング コード	AFA4333101	授業科目名	染織基礎1			開講曜日・講時	木曜 3 限 木曜 4 限 金曜 3 限 金曜 4 限		
担当教員名	賀門 利誓	授業区分	週間授業	開講年度	2019	開講学期	前期	授業形態 種別	実習
科目ナンバリングの説明 ページへのリンク	<a href="http://www.kyoto-seika.ac.jp/stu/class/numbering">http://www.kyoto-seika.ac.jp/stu/class/numbering</a>			ディプロマポリシー(DP) の説明ページへのリンク		<a href="http://www.kyoto-seika.ac.jp/stu/class/matrix">http://www.kyoto-seika.ac.jp/stu/class/matrix</a>			
サブタイトル									
シルクスクリーン・浴衣地制作									
授業の目的・到達目標									
<p>「1 年次専攻基礎(メチエ)全体における学びの目標」</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 専攻分野での造形表現に関する基礎的な知識・技能・特性を理解し、表現に必要な思考方法を身につける。</li> <li>2 他者の心に訴える事ができる造形力を備え、考えを表現できるようになる。</li> <li>3 自分の個性や適正を活かし、目標を持って他者と協働できるようになる。</li> </ol> <hr/> <p>－専攻分野固有の学びの目標－</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1、シルクスクリーン捺染の基礎的技法について理解できる。</li> <li>2、パターンデザインの発案から版下までの過程を修得できる。</li> <li>3、版の造形性の理解と可能性を発見できる。</li> <li>4、浴衣地 13m の内、一定 m 数以上仕上げ、シルクスクリーン捺染のリピート技術を習得できる。</li> </ol>									
授業の概要									
<p>自然現象などを形にし、実習を通してシルクスクリーン捺染技法(一版一色刷り)により浴衣地を染める。 アイデア出しから制作の工程、完成までの全てを経験する。 また、リピートパターンデザインの概念を理解する。</p>									
授業計画									
<p>■授業日程:2019年4月11日(木)～6月6日(木) ■教室:光彩館 K-202 実習室</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1.課題説明、ことばからの連想。フリードローイング(自由にイメージを描く)</li> <li>2.フリードローイング(自由にイメージを描く)</li> <li>3.シルクスクリーン技法の説明。道具と技術、制作工程の説明。</li> <li>4.パターンへの展開①(トレース説明)</li> <li>5.パターンへの展開②(パターン説明)</li> <li>6.図案の完成、リピートに関する説明</li> <li>7.製版準備(紗張り)。版下制作①(図案を元にオペークインクでトレース)</li> <li>8.版下制作②(図案を元にオペークインクでトレース)</li> <li>9.版下制作③(図案を元にオペークインクでトレース)</li> <li>10.製版(焼付け製版、感光)</li> <li>11.プリント①(色出し)</li> <li>12.プリント②</li> <li>13.プリント③</li> <li>14.プリント④</li> <li>15.講評</li> </ol>									
授業外学習の指示(予習・復習・課題等)									
<p>単位制度の趣旨に則り、この授業では週 4 時間の授業外学習が必要である。授業内で配布する参考文献や各自で興味ある関連書籍を読み進めること。授業での指示を元に各自、課題を進め積極的に自習すること。</p>									
購入必須テキスト(授業内で配付するプリント類を除く)									
特になし。参考資料配布。									
参考文献・作品等(購入不要:より深く授業内容を理解するための有用資料)									
特になし。									
参考 WEB サイト(サイト名・URL)									

科目ナンバリングコード	AFA4335101	授業科目名	染織基礎2			開講曜日・講時	木曜 3 限 木曜 4 限 金曜 3 限 金曜 4 限		
担当教員名	繁田 真樹子	授業区分	週間授業	開講年度	2019	開講学期	前期	授業形態種別	実習
科目ナンバリングの説明ページへのリンク	<a href="http://www.kyoto-seika.ac.jp/stu/class/numbering">http://www.kyoto-seika.ac.jp/stu/class/numbering</a>			ディプロマポリシー(DP)の説明ページへのリンク	<a href="http://www.kyoto-seika.ac.jp/stu/class/matrix">http://www.kyoto-seika.ac.jp/stu/class/matrix</a>				
サブタイトル									
ろう染めによる表現方法を学ぶー「野菜」をテーマに制作するー									
授業の目的・到達目標									
「1 年次専攻基礎(メチエ)全体における学びの目標」									
1 専攻分野での造形表現に関する基礎的な知識・技能・特性を理解し、表現に必要な思考方法を身につける。									
2 他者の心に訴える事ができる造形力を備え、考えを表現できるようになる。									
3 自分の個性や適正を活かし、目標を持って他者と協働できるようになる。									
ー専攻分野固有の学びの目標ー									
●スケッチにより独自の観察力をやしなうことができる。									
●ろう染めという技法を知り、体験できる。									
●丁寧な作業効率を考え実践することができる。									
授業の概要									
ろう染めの歴史を学び、基本技術を学ぶことにより、野菜をモチーフに独自の世界を B2 サイズに展開する。									
授業計画									
■授業日程:2019年6月7日(金)~7月26日(金)									
■教室:光彩館3階 K-202 実習室									
第1回 ろう染めデモンストレーション、ろう染め体験、課題説明									
第2回 歴史解説、ろう染め作品の紹介、アイデアスケッチ									
第3回 アイデアスケッチ、ろう染め体験分のあらい取り									
第4回 アイデアスケッチ、原寸へ									
第5回 原寸①									
第6回 原寸②									
第7回 生地張り、布へのトレース、染め									
第8回 染め①									
第9回 染め②									
第10回 染め③									
第11回 染め④									
第12回 脱ろう									
第13回 蒸し									
第14回 水元、パネル張り									
第15回 講評									
授業外学習の指示(予習・復習・課題等)									
単位制度の趣旨に則り、この授業では週4時間の授業外学習が必要である。									
また、第1回目と2回目の間に自身の選んだ野菜をモチーフに各自スケッチをしてもらうこと。									
購入必須テキスト(授業内で配付するプリント類を除く)									
特になし、参考資料配布									
参考文献・作品等(購入不要:より深く授業内容を理解するための有用資料)									
特になし									
参考WEBサイト(サイト名・URL)									
特になし									

科目ナンバリング コード	AFA4337101	授業科目名	染織基礎3			開講曜日・講時	木曜 3 限 木曜 4 限 金曜 3 限 金曜 4 限		
担当教員名	大住 由季	授業区分	週間授業	開講年度	2019	開講学期	後期	授業形態 種別	実習
科目ナンバリングの説明 ページへのリンク	<a href="http://www.kyoto-seika.ac.jp/stu/class/numbering">http://www.kyoto-seika.ac.jp/stu/class/numbering</a>			ディプロマポリシー(DP) の説明ページへのリンク		<a href="http://www.kyoto-seika.ac.jp/stu/class/matrix">http://www.kyoto-seika.ac.jp/stu/class/matrix</a>			
サブタイトル									
羊毛の特性を生かした幅広い表現を持つフェルトメイキングを学ぶ。 フェルトは繊維の絵具、粘土、糊です。									
授業の目的・到達目標									
「1 年次専攻基礎(メチエ)全体における学びの目標」 1 専攻分野での造形表現に関する基礎的な知識・技能・特性を理解し、表現に必要な思考方法を身につける。 2 他者の心に訴える事ができる造形力を備え、考えを表現できるようになる。 3 自分の個性や適正を活かし、目標を持って他者と協働できるようになる。									
—専攻分野固有の学びの目標— 1、スケッチからの観察を経て、魅力的な形を引き出すことができる。 2、フェルトメイキングの工程を理解し、実施することができる。 3、丁寧な作業で、フェルトの特徴を生かした作品に仕上げるることができる。									
授業の概要									
テーマは「植物」。 植物のスケッチから魅力的な形を見つけ出し、フェルトで身体に装着する立体・ウェアラブルジュエリーを制作します。 スケッチのあと、植物から何をイメージするかキーワードを考え、このキーワードからイメージをふくらませ、イメージドローイングを描きます。 植物そのものの形・色を再現するのではなく、イメージをもとに自らの造形を目指しましょう。 頭にかぶるもの、肩にかける物、からだに巻き付けるもの等、植物の形から自由に発想してください。 色とりどりに染められたウール原毛を使って、最初は柔らかく細い繊維が丈夫な平面や立体に変化することから体験します。 羊毛を使ったフェルトの技法は、繊維の絵具でもあり、粘土でもあり、糊でもあります。 絵具と同じように模様を描くこともできますし、繊維を重ねることでフェルト独自の色の見せ方もあります。 平面・立体を作る水フェルトの技法は、ウール原毛に石けんを混ぜた湯で湿らせた後に、時間をかけて摩擦・圧力を加えることによりフェルトに変化させます。 プレフェルト、ニードルフエルト、布フェルト等の技法を合わせて学ぶことにより表現の幅を広げます。 各技法は説明・デモンストレーションのあと、各自サンプルを制作します。 授業の最初に行ないますので、必ずメモをとり遅刻・欠席のないようにしてください。 サンプルを作る時間を設けていますので、技法を組み合わせる模様の作り方、立体の表現について研究し、フェルトの可能性を探しましょう。 サンプル付きプレゼンを経て、実制作に入ります。 合評は身体に装着した状態で行ないます。									
授業計画									
■授業日程:2019年10月3日(木)~11月28日(木) ■教室:光彩館3階 K-202 実習室 第1回 課題説明 フェルトサンプル制作(プレフェルト) 第2回 スケッチ 第3回 アイデアチェック フェルトサンプル制作(平面) 第4回 フェルトサンプル制作 (立体) 第5回 イメージ発表 フェルトサンプル制作(布フェルト、ニードルフエルト) 第6回 各自サンプル作成 1 第7回 各自サンプル作成 2 第8回 サンプル付プレゼン 第9回 実制作 1 第10回 実制作 2 第11回 室制作 3 第12回 室制作 4 第13回 実細作 5 第14回 実制作 6 第15回 合評									
授業外学習の指示(予習・復習・課題等)									
単位制度の趣旨に則り、この授業では週4時間の授業外学習が必要である。 実習時間がかぎられているので、予習として植物の観察・スケッチを行うこと。									
購入必須テキスト(授業内で配付するプリント類を除く)									
特になし									
参考文献・作品等(購入不要・より深く授業内容を理解するための有用資料)									
「フェルトメイキング ウールマジック」ジョリー・ジョンソン 青幻舎									
参考 WEB サイト(サイト名・URL)									

科目ナンバリングコード	AFA4339101	授業科目名	染織基礎4			開講曜日・講時	木曜 3 限 木曜 4 限 金曜 3 限 金曜 4 限		
担当教員名	大村 優里	授業区分	週間授業	開講年度	2019	開講学期	後期	授業形態種別	実習
科目ナンバリングの説明ページへのリンク	<a href="http://www.kyoto-seika.ac.jp/stu/class/numbering">http://www.kyoto-seika.ac.jp/stu/class/numbering</a>			ディプロマポリシー(DP)の説明ページへのリンク		<a href="http://www.kyoto-seika.ac.jp/stu/class/matrix">http://www.kyoto-seika.ac.jp/stu/class/matrix</a>			
サブタイトル									
型染めによる表現方法を学ぶ 一私の京都の景色一									
授業の目的・到達目標									
<p>「1 年次専攻基礎(メテエ)全体における学びの目標」</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 専攻分野での造形表現に関する基礎的な知識・技能・特性を理解し、表現に必要な思考方法を身につける。</li> <li>2 他者の心に訴える事ができる造形力を備え、考えを表現できるようになる。</li> <li>3 自分の個性や適正を活かし、目標を持って他者と協働できるようになる。</li> </ol>									
<p>ー専攻分野固有の学びの目標ー</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 「私が見つけた京都の景色」をテーマに、観光的な側面とは違うそれぞれの日常の中の「京都の景色」を見つけ、構成する。</li> <li>2. スケッチなどを基にした下図を型紙に彫り、型の重なりや反復させることによって生まれるデザイン性などを学ぶ。</li> <li>3. 日本で独自に発展した染色技法の学習を通じ、染色史の背景を理解し、伝統的工芸技法への興味を深める。</li> </ol>									
授業の概要									
<p>型染めという日本古来の伝統染色技法のひとつひとつの工程を体験し、その技法を習得していく。 イメージ、アイデアをスケッチし、できあがり予想したエスキースをつくる。 エスキースに基づき、型紙に彫れるようデザインをつくる。 その際、布の持つ空間性、型による構成性など型染の表現方法の多様性を学び、個々の独自のアイデアを生かして制作していく。</p>									
授業計画									
<p>■授業日程:2019年11月29日(金)~2020年1月31日(金) ■教室:光彩館3階 K-202 実習室</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>第1回…課題説明、型染め技法説明、歴史講義、モチーフ採集</li> <li>第2回…スケッチ、エスキース、</li> <li>第3回…エスキースチェック、デザイン下図</li> <li>第4回…防染糊づくり、型紙の説明(つりなど)、デザイン下図</li> <li>第5回…糊仕上げ、地張り板敷き糊、デザイン下図</li> <li>第6回…糊置きデモンストレーション、デザイン下図</li> <li>第7回…地入れデモンストレーション、染料づくり、下図チェック</li> <li>第8回…染色デモンストレーション、下図チェック、型紙にトレース</li> <li>第9回…型彫り、布地張り</li> <li>第10回…糊置き、地入れ準備</li> <li>第11回…地入れ、染色準備</li> <li>第12回…染色</li> <li>第13回…染色</li> <li>第14回…フィキサー定着、水元</li> <li>第15回…作品仕上げ、講評</li> </ol>									
授業外学習の指示(予習・復習・課題等)									
<p>単位制度の趣旨に則り、この授業では週4時間の授業外学習が必要である。 授業内で配布する参考文献や各自で興味ある関連書籍を読み進めること。</p>									
購入必須テキスト(授業内で配付するプリント類を除く)									
特になし。									
参考文献・作品等(購入不要:より深く授業内容を理解するための有用資料)									
特になし。									
参考WEBサイト(サイト名・URL)									
特になし。									



科目ナンバリング コード	AFA4341101	授業科目名	版画基礎1			開講曜日・講時	木曜 3 限 木曜 4 限 金曜 3 限 金曜 4 限		
担当教員名	岸 雪絵	授業区分	週間授業	開講年度	2019	開講学期	前期	授業形態 種別	実習
科目ナンバリングの説明 ページへのリンク	<a href="http://www.kyoto-seika.ac.jp/stu/class/numbering">http://www.kyoto-seika.ac.jp/stu/class/numbering</a>			ディプロマポリシー (DP) の説明ページへのリンク	<a href="http://www.kyoto-seika.ac.jp/stu/class/matrix">http://www.kyoto-seika.ac.jp/stu/class/matrix</a>				
サブタイトル									
伝統的な木版画とブックアートを学び表現の可能性を探る									
授業の目的・到達目標									
「1 年次専攻基礎(メテエ)全体における学びの目標」 1 専攻分野での造形表現に関する基礎的な知識・技能・特性を理解し、表現に必要な思考方法を身につける。 2 他者の心に訴える事ができる造形力を備え、考えを表現できるようになる。 3 自分の個性や適正を活かし、目標を持って他者と協働できるようになる。									
—専攻分野固有の学びの目標— (1) 銅版画の特性を習得する (2) ニードルなどの専門的な道具の使い方や 腐食液の扱い方を学ぶ (3) 直刻法と腐蝕法の製版の違いや銅版画技法の印刷について修得する (4) 紙漉きの基本的な知識とプロセスを修得する									
授業の概要									
銅版画技法の2種類の製版方法である直刻法(直接法)と腐蝕法(間接法)について理解し、技法の習得をする。直刻法は針ように先端の尖ったニードルという描画道具を用い、ドライポイントという技法で制作する。腐蝕法では銅板を薬品によって凹凸をつくり、より幅広い表現方法を学ぶ。これら3つの技法の特性を踏まえた作品制作に取り組む。加えて、紙漉き技法を学ぶことで版画の支持体である紙素材についての認識、または紙自体が表現の素材となり得ることを考察する。									
授業計画									
■授業日程:2019年4月11日(木)~6月6日(木) ■教室:対峰館2階 T-208 実習室									
銅版画 直方刻と腐蝕法の銅版画の基礎的な技法を習得し、製版から刷りまでの制作過程を通して銅版画を理解する 第1回 ガイダンス、銅版画技法[ドライポイント]の製版方法説明と実習 第2回 [ドライポイント]の製版、印刷① 第3回 [ドライポイント]の印刷② 第4回 [ドライポイント]の印刷③ 銅版画の歴史と作品紹介、紙の歴史と 素材やプロセスについて、また作品紹介 第5回 紙すき実習①(用具、施設の説明、ピーティング、染色実習) 第6回 紙すき実習②(楮による流し漉き) 第7回 紙すき実習③(パルプによる溜め漉き) 第8回 紙すき実習④(流し漉き・溜め漉き) 第10回 [エッチング]技法の理解と実習①:腐蝕方の説明について、下絵作成 第11回 [エッチング]技法の理解と実習②:製版 第12回 [エッチング]技法の理解と実習③:製版、刷り 第13回 [エッチング]技法の理解と実習④:製版、刷り 第14回 [エッチング]技法の理解と実習⑤:刷り(自作の紙を使用した刷りも行う) 第15回 合評会									
授業外学習の指示(予習・復習・課題等)									
単位制度の趣旨に則り、この授業では週4時間の授業外学習が必要である。 また、様々なイメージに目を向け、各自の作品イメージにつながりそうな資料の収集や、エスキースをおこなう									
購入必須テキスト(授業内で配付するプリント類を除く)									
特になし									
参考文献・作品等(購入不要:より深く授業内容を理解するための有用資料)									
授業内において様々な作家の作品や学生参考作品を随時紹介									
参考 WEB サイト(サイト名・URL)									
特に指定しない									

科目ナンバリング コード	AFA4347101	授業科目名	版画基礎4			開講曜日・講時	木曜 3 限 木曜 4 限 金曜 3 限 金曜 4 限		
担当教員名	岸 雪絵	授業区分	週間授業	開講年度	2019	開講学期	後期	授業形態 種別	実習
科目ナンバリングの説明 ページへのリンク	<a href="http://www.kyoto-seika.ac.jp/stu/class/numbering">http://www.kyoto-seika.ac.jp/stu/class/numbering</a>			ディプロマポリシー(DP) の説明ページへのリンク	<a href="http://www.kyoto-seika.ac.jp/stu/class/matrix">http://www.kyoto-seika.ac.jp/stu/class/matrix</a>				
サブタイトル									
ポリマー版画(感光性樹脂版)制作と絵画表現に近いウォータレスリトグラフの制作									
授業の目的・到達目標									
「1 年次専攻基礎(メチエ)全体における学びの目標」 1 専攻分野での造形表現に関する基礎的な知識・技能・特性を理解し、表現に必要な思考方法を身につける。 2 他者の心に訴える事ができる造形力を備え、考えを表現できるようになる。 3 自分の個性や適正を活かし、目標を持って他者と協働できるようになる。									
—専攻分野固有の学びの目標— (1)感光性樹脂版の原理やプロセスを理解し修得する (2)平版の原理やプロセスを理解し修得する (3)イメージ画について考察する (4)「環境にやさしい版画」について知る									
授業の概要									
夢の中や物語性のある世界など、現実とは異なる世界観を描くイメージ画について知識を深め、作品制作に取り組む。そして化学薬品を使わない「環境にやさしい版画」であるポリマー凹版画(感光性樹脂版)と、ウォータレス・リトグラフの二つの版画技法を学ぶ。制作を通して、凹版と平版の原理を理解し、これらの技法習得することを目指す。									
授業計画									
■授業日程:2019年11月29日(金)~2020年1月31日(金) ■教室:対峰館2階 T-208 実習室									
第1回 授業全体のガイダンス、イメージ表現の実習①									
「ウォータレス・リトグラフ」:多版多色の作品制作を行う									
第2回 ウォータレス・リトグラフの概略説明及び実習									
第3回 ウォータレス・リトグラフの下絵制作									
第4回 ウォータレス・リトグラフの製版①									
第5回 ウォータレス・リトグラフの製版②									
第6回 ウォータレス・リトグラフの製版③、印刷①									
第7回 ウォータレス・リトグラフの印刷②									
第8回 ウォータレス・リトグラフの印刷③									
「ポリマー凹版画」									
第9回 リトグラフの歴史と作品紹介、ポリマー凹版画の作品紹介など、コラージュ制作									
第10回 サーフェイス・ドローイングの説明と実習									
第11回 サーフェイス・ドローイングの制作									
第12回 ポリマー凹版画の概略説明、ポリマー凹版の製版									
第13回 ポリマー凹版の印刷①									
第14回 ポリマー凹版の印刷②									
第15回 合評会									
授業外学習の指示(予習・復習・課題等)									
単位制度の趣旨に則り、この授業では週4時間の授業外学習が必要である。 様々なイメージに目を向け、各自のイメージにつながりそうな資料を集めたり、エスキースなど行う。 またドローイングを前提にコラージュの展開を考える									
購入必須テキスト(授業内で配付するプリント類を除く)									
特になし									
参考文献・作品等(購入不要:より深く授業内容を理解するための有用資料)									
授業内において様々な作家の作品や学生参考作品を随時紹介									
参考WEBサイト(サイト名・URL)									
特に指定しない									

科目ナンバリングコード	AFA4349101	授業科目名	映像基礎1			開講曜日・講時	木曜 3 限 木曜 4 限 金曜 3 限 金曜 4 限		
担当教員名	相内 啓司	授業区分	週間授業	開講年度	2019	開講学期	前期	授業形態種別	実習
科目ナンバリングの説明ページへのリンク	<a href="http://www.kyoto-seika.ac.jp/stu/class/numbering">http://www.kyoto-seika.ac.jp/stu/class/numbering</a>			ディプロマポリシー (DP)の説明ページへのリンク	<a href="http://www.kyoto-seika.ac.jp/stu/class/matrix">http://www.kyoto-seika.ac.jp/stu/class/matrix</a>				
サブタイトル									
アート・アニメーションを実践的に学ぶ: 動画の基礎トレーニングから作品制作まで									
授業の目的・到達目標									
「1 年次専攻基礎(メチエ)全体における学びの目標」									
1 専攻分野での造形表現に関する基礎的な知識・技能・特性を理解し、表現に必要な思考方法を身につける。									
2 他者の心に訴える事ができる造形力を備え、考えを表現できるようになる。									
3 自分の個性や適正を活かし、目標を持って他者と協働できるようになる。									
—専攻分野固有の学びの目標—									
(1)アートという視点からアニメーションをとらえることができる。									
(2)絵を描くということを動きのイメージという視点からとらえることができる									
(3)絵を描くことや、映像表現の発想力(企画・構想力)が高まる。									
(4)動画の基礎をマスターし、自分で応用できるようになる。									
(5)各自のアイデアを盛り込んだ作品を完成させることができる。									
授業の概要									
(1)作品研究:芸術性の高い世界のアート・アニメーションを鑑賞し、関心を高める。									
(2)アニメーション動画基礎:アニメーションの原理を理解することから、アニメーション表現として発達してきた独特の動画のメカニズムの基礎を習得する。(自然現象やもの、人などの動きのイメージのさまざまな動きのメカニズム。歩き、走り、背景のスクロールなど)									
(3)アニメーション制作実習:動画の基礎をベースに各自のアイデアを盛り込んだ作品制作を行う。									
授業計画									
■授業日程:2019年4月11日(木)~6月6日(木)									
■教室:対峰館3階 T-317A 実習室									
1:ガイダンス:作品研究(アートアニメーションの世界1)。課題1/制作:「2Frame アニメーション」(動きのイメージの原理を理解する)									
3:作品研究(アートアニメーションの世界2)。課題2/制作:動画基礎(メタモルフォーゼ:変形と連続性)									
4:作品研究(アートアニメーションの世界3)。課題2/制作:動画基礎(メタモルフォーゼ:撮影とループ再生)									
5:作品研究(アートアニメーションの世界4)。課題3/制作:動画基礎(人間の歩く動作)									
6:作品研究(アートアニメーションの世界5)。課題4/制作:動画基礎(人間の走る動作1)									
7:作品研究(アートアニメーションの世界6)。課題4/制作:動画基礎(人間の走る動作2)									
8:作品研究(アートアニメーションの世界7)。課題5/制作:動画基礎(背景を動かす/自然現象2)									
9:課題5/制作:動画基礎(背景を動かす)。課題5/作品完成。プレゼンテーション・講評。									
10:課題6/制作:「MOVING IMAGE」(作品企画1)課題「MOVING IMAGE」(作品企画2、絵コンテの作成)									
11:課題6/制作:「MOVING IMAGE」(原画制作)									
12:課題6/制作:「MOVING IMAGE」(動画制作)									
13:課題6/制作:「MOVING IMAGE」(動画制作+撮影)									
14:課題6/制作:「MOVING IMAGE」(撮影、編集+音入れ)									
15:課題6/作品の完成。プレゼンテーション、講評									
授業外学習の指示(予習・復習・課題等)									
単位制度の趣旨に則り、この授業では週4時間の授業外学習が必要です。									
この科目では手で描くことを中心に進めるので、ふだんから自主的な描画のトレーニング(ドローイング、デッサン、模写など)に励んでおくことが必要です。									
発想力を高めるために、美術書、映画関係書、写真集、映画・映像資料、web、自然などに関心を持ち、目を通しておくことが必要です。									
課題制作にあたっては、授業内で作品の動画の作画についての指導および、作品の構想・企画についてのアドバイスをを行いますが、そのためには授業の事前・事後に十分な予習、復習を行なうことが必要です。									
購入必須テキスト(授業内で配付するプリント類を除く)									
特になし									
参考文献・作品等(購入不要:より深く授業内容を理解するための有用資料)									
『メディアアートの世界』国書刊行会									
『ANIMALS IN MOTION』DOVER PUBLICATION									
『アニメーターズ サバイバルキット』リチャード・ウィリアムズ、グラフィック社									
『特殊効果アニメーションの世界』ジョセフ・ジランド、ボーン・デジタル									
参考 WEB サイト(サイト名・URL)									

科目ナンバリングコード	AFA4351101	授業科目名	映像基礎2			開講曜日・講時	木曜 3 限 木曜 4 限 金曜 3 限 金曜 4 限		
担当教員名	人長 果月	授業区分	週間授業	開講年度	2019	開講学期	前期	授業形態種別	実習
科目ナンバリングの説明ページへのリンク	<a href="http://www.kyoto-seika.ac.jp/stu/class/numbering">http://www.kyoto-seika.ac.jp/stu/class/numbering</a>			ディプロマポリシー(DP)の説明ページへのリンク	<a href="http://www.kyoto-seika.ac.jp/stu/class/matrix">http://www.kyoto-seika.ac.jp/stu/class/matrix</a>				
サブタイトル									
映像制作基礎 ーデジタルビデオカメラによる撮影技法とデジタル編集技術の習得									
授業の目的・到達目標									
「1 年次専攻基礎(メチエ)全体における学びの目標」									
1 専攻分野での造形表現に関する基礎的な知識・技能・特性を理解し、表現に必要な思考方法を身につける。									
2 他者の心に訴える事ができる造形力を備え、考えを表現できるようになる。									
3 自分の個性や適正を活かし、目標を持って他者と協働できるようになる。									
ー専攻分野固有の学びの目標ー									
・デジタルビデオカメラを用いた撮影技法の習得									
・AdobePremiere を用いたデジタルビデオ編集技術の習得									
・映像をモニターやプロジェクターなどの出力機器で再生できる知識の習得									
・映像制作を企画・立案し、実行に移すことができる知識の習得									
授業の概要									
カメラを用いた映像制作の基本を学ぶ。実写映像の制作における一連の工程、一企画書の制作、絵コンテの制作、デジタルビデオカメラによるビデオ撮影、デジタル編集ソフトを用いた映像編集・音声編集、映像作品鑑賞に適した環境作りーを実践する。基礎的な技術を習得した後、与えられたテーマから、自由に企画・撮影・編集を行い、ショートムービーを制作する。									
授業計画									
■授業日程:2019年6月7日(金)~7月26日(金)									
■教室:自在館3階 Z-301 PCルーム									
01.ガイダンス(ビデオカメラの取り扱い説明)									
02.課題1(撮影、三脚に固定して撮影を行う)									
03.課題1(カット編集)									
04.課題1(撮影、スタビライザーを用いて撮影を行う)									
05.課題1(編集、色調補正を行う、音響効果を追加する)									
06.課題2(プランニング・企画書の作成)									
07.課題2(絵コンテ作成)									
08.課題2(テスト撮影、撮影の工夫)									
09.課題2(撮影)									
10.課題2(撮影)									
11.課題2(編集)									
12.課題2(編集)									
13.課題2(編集)音響効果									
14.課題2(編集)ビジュアルデザイン、プレゼン資料の作成									
15.課題2(発表)									
授業外学習の指示(予習・復習・課題等)									
単位制度の趣旨に則り、この授業では週4時間の授業外学習が必要である。									
自らが制作してみたいイメージに近い映像作品を鑑賞し、その技法や表現について調査しておく。									
円滑な撮影を行うための準備(プランニング、絵コンテ作成、衣装や小道具の用意など)は授業時間外に行うこと。									
購入必須テキスト(授業内で配付するプリント類を除く)									
なし									
参考文献・作品等(購入不要:より深く授業内容を理解するための有用資料)									
使用機器の取り扱い説明書は各自、必ず目を通すこと									
参考作品は授業内で適宜紹介する									
参考WEBサイト(サイト名・URL)									
Adobe 公式サイト(Premiere Pro ラーニングとサポート、ヘルプページなど) <a href="http://www.adobe.com/jp/">http://www.adobe.com/jp/</a>									
dji 公式サイト <a href="https://www.dji.com/jp">https://www.dji.com/jp</a>									

科目ナンバリングコード	AFA4353101	授業科目名	映像基礎3			開講曜日・講時	木曜 3 限 木曜 4 限 金曜 3 限 金曜 4 限			
担当教員名	米正 万也		授業区分	週間授業	開講年度	2019	開講学期	後期	授業形態 種別	実習
科目ナンバリングの説明 ページへのリンク	http://www.kyoto-seika.ac.jp/stu/class/numbering			ディプロマポリシー (DP) の説明ページへのリンク		http://www.kyoto-seika.ac.jp/stu/class/matrix				
サブタイトル										
アニメーションは動きの魔法。その可能性を学び、思いを伝える作品を制作する。										
授業の目的・到達目標										
「1 年次専攻基礎(メテエ)全体における学びの目標」										
1 専攻分野での造形表現に関する基礎的な知識・技能・特性を理解し、表現に必要な思考方法を身につける。										
2 他者の心に訴える事ができる造形力を備え、考えを表現できるようになる。										
3 自分の個性や適正を活かし、目標を持って他者と協働できるようになる。										
—専攻分野固有の学びの目標—										
(1) 手描き、クレイ、砂、人形、CG など様々な種類のアニメーション手法について理解、説明できる。										
(2) ビジュアル、音、素材、手法、リズムが表現内容に与える効果がわかる。										
(3) 基本的なアニメーションの企画立案、演出、撮影、編集、完成ができる。										
授業の概要										
世界の様々な短編アニメーションを観て、テーマと技法の結びつき、伝える技術について考察する。制作は取り組みやすいシンプルな手描きアニメーションから始め、身近にあるものを少しずつ動かして命を吹き込むオブジェクトアニメーション、音や音楽に合わせた動きを作るシンクロの方法、コンピュータによる編集などを小課題を通して学び、最終課題では短い作品を完成させる。自分のテーマを探し、制作計画を立て、映像で語るためにストーリーボードを描き、意見交換する中で、考えをアニメーションで伝えるための表現内容・方法を深める。この授業で目指すのは「社会に対して表現したいと願うテーマを、適した方法で、作品として昇華させる」道への入り口を見つけることである。										
授業計画										
■授業日程:2019年10月3日(木)~11月28日(木)										
■教室:対峰館3階 T-317A 実習室										
授業計画										
?										
(1)ガイダンス:アニメーションでできること										
(2)動きをつくる/静止画から映像へ										
(3)音へのシンクロ1										
(4)音へのシンクロ2										
(5)素材・要素・技法の研究										
(6)テーマの発見										
(7)ストーリーボード										
(8)作品制作1										
(9)作品制作2										
(10)作品制作3										
(11)作品制作4										
(12)作品制作5										
(13)作品制作6										
(14)作品制作7										
(15)作品発表/まとめ										
授業外学習の指示(予習・復習・課題等)										
単位制度の趣旨に則り、この授業では週4時間の授業外学習が必要である。										
授業外にも制作時間が必要である。また、できるだけ多くの映像作品を「作り手の視点」を心がけて鑑賞し、自分ならばどのように表現するかを考察すること。										
購入必須テキスト(授業内で配付するプリント類を除く)										
特になし										
参考文献・作品等(購入不要:より深く授業内容を理解するための有用資料)										
・「The Animation Book」Kit Laybourne 英語版だがアイデアの探し方から撮影台の作り方まで掲載。										
・「コマ撮りアニメーションの秘密—オスカー獲得13作品の制作現場と舞台裏」オリヴィエ・コット 手描きや人形アニメーションでのアカデミー短編アニメーション賞受賞者へのインタビュー。										
・DVD「連句アニメーション 冬の日」日本と世界のアニメーション作家 35人によるアニメーション・コラボレーション。メイキングインタビューもあり、様々な種類のアニメーションが観られる。										
上記は全て情報館所										
参考WEBサイト(サイト名・URL)										

科目ナンバリング コード	AFA4355101	授業科目名	映像基礎4			開講曜日・講時	木曜 3 限 木曜 4 限 金曜 3 限 金曜 4 限		
担当教員名	伊奈 新祐	授業区分	週間授業	開講年度	2019	開講学期	後期	授業形態 種別	実習
科目ナンバリングの説明 ページへのリンク	<a href="http://www.kyoto-seika.ac.jp/stu/class/numbering">http://www.kyoto-seika.ac.jp/stu/class/numbering</a>			ディプロマポリシー(DP) の説明ページへのリンク	<a href="http://www.kyoto-seika.ac.jp/stu/class/matrix">http://www.kyoto-seika.ac.jp/stu/class/matrix</a>				
サブタイトル									
ショートムービーと実験映像入門									
授業の目的・到達目標									
<p>「1 年次専攻基礎(メチエ)全体における学びの目標」</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 専攻分野での造形表現に関する基礎的な知識・技能・特性を理解し、表現に必要な思考方法を身につける。</li> <li>2 他者の心に訴える事ができる造形力を備え、考えを表現できるようになる。</li> <li>3 自分の個性や適正を活かし、目標を持って他者と協働できるようになる。</li> </ol>									
<p>—専攻分野固有の学びの目標—</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1) デジタルビデオカメラや一眼レフカメラの動画機能を用いた撮影の基礎を習得する。</li> <li>2) Adobe Premiere Pro と After Effects による編集技法の基礎を習得する。</li> <li>3) ショートムービー制作における企画能力を身につける。</li> <li>4) 映像表現における実験とは何かを考える。</li> </ol> <p>* 基本的なデジタル映像制作ができる。</p>									
授業の概要									
映像制作の一連の基本的作業及び基本的な技法(撮影→編集→メディアへ書き出しなど)の習得・確認。カメラワークの研究や、デジタル編集の技術を高める上で、自由な発想を展開し、オリジナルな映像表現を追求する。									
授業計画									
<p>■授業日程:2019年11月29日(金)~2020年1月31日(金)</p> <p>■教室:自在館3階 Z-301 PC ルーム</p> <p>第1回 ガイダンス  第2回 課題(1)の説明 :「絵画から映像へ」(有名な画家の絵をもとに映像化する)  第3回 課題(1)のプランニング  第4回 課題(1)の撮影1  第5回 課題(1)の撮影2(Photoshop と After Effects を使用する)  第6回 課題(1)の編集(After Effects と Premiere Pro を使用する)1  第7回 課題(1)の編集(After Effects と Premiere Pro を使用する)2  第8回 課題1の「合評会」  第9回 課題(2)の説明 :「音を撮る」(audio-visua imaging / audio-vision)  第10回 課題(2)のプランニング  第11回 課題(2)の撮影・編集(「マルチ化」と「レイヤー化」を意識する)1  第12回 課題(2)の撮影・編集(「マルチ化」と「レイヤー化」を意識する)2  第13回 課題(2)の編集(「マルチ化」と「レイヤー化」を意識する)3  第14回 課題2の合評会  第15回 まとめ</p>									
授業外学習の指示(予習・復習・課題等)									
<p>単位制度の趣旨に則り、この授業では週4時間の授業外学習が必要である。</p> <p>制作にあたり、撮影場所がキャンパス外の場合は、授業時間外に撮影を行う必要がある。</p> <p>様々な上映会に参加したり、日常的なTVや映像作品鑑賞においても「制作者の視点」から見ることを意識する。</p>									
購入必須テキスト(授業内で配付するプリント類を除く)									
適宜プリントを配付する。									
参考文献・作品等(購入不要:より深く授業内容を理解するための有用資料)									
「Adobe Premiere Pro」と「After Effects」に関する解説書・参考書は、適宜、授業内で紹介する。									
参考WEBサイト(サイト名・URL)									